

## 育児における父親の役割に関する研究 夫立会い分娩の経験別にみた育児の関わりについて

分担研究者 川井 尚<sup>1)</sup>

研究協力者 千賀 悠子<sup>1)</sup>、堀口 貞夫<sup>2)</sup>、望月 武子<sup>1)</sup>

### 要旨

目的：伝統的養育システムや養育環境が急変していく現代にあって、子どもを出産し新しい家族を形成していく時に、父親はどのような役割をとっていくのかを調査し検討。調査内容と方法：子どもの出生後1年間の父親の子どもとの関わり（愛着行動—あやす、抱く、話しかける）、子どもと一緒にいる時の気持ち（子どもへの肯定的感情）、妻とのコミュニケーション等。子どもの出生1カ月時、6カ月時、1カ年時の計3回継続して同一の調査対象者に郵送調査。対象は、東京—A病院で出産をした産婦の夫227人。結果：対象全体の1カ年時の傾向は、子どもとの関わり・子どもの世話などをよくしている。子どもへの肯定的感情も高い。立会い分娩の経験別に検討すると、立会い分娩群は対照群に比べ子どもとの遊びや世話をよくしており、動きのある遊びが多い。また、子どもへの肯定的感情得点も高く、子どもに対する関心が全体的に高い傾向がある。妻とのコミュニケーションもよくとっている。

見出し語：父親、乳児、立会い分娩、育児、愛着行動

### I 目的

環境の著しく変化する都市生活において、夫婦が子どもの誕生という新しい家族の一員を迎える時は、ライフサイクルにおける危機—ストレスである。父親はこの経験をどのように受け止めていくのか、子どもの生後1カ年の間の父親の意識や役割などについてアンケート調査し考察する。

### II 調査内容と方法

父親に郵送によるアンケート調査を実施し、子どもが誕生してから出生1年後までの子どもへの関わりなどについて考察。調査対象は東京—A病院で出産した産婦の夫で、出生後1カ月時、出生6カ月時、出生1年時の計3回同一対象に継続的に調査。（表—1）

調査内容は出生後1カ月・6カ月・1カ年時を通してほぼ同一したが、子どもの発達・成長によって親の関わり方などが次第に変化すると考えられる項目については、質問の表現をかえた。

なお、6カ月時に新規項目を追加し本文では（新）と表示。

#### 1 子どもとの関わり

##### (1) 子どもとの関わり

あやしたり遊んだり話しかけること

##### (2) 子どもの世話

日常の世話、具合の悪い時などの世話

##### (3) 子どもに関しての心配

子どものことが絶えず心配か、順調に育っているか心配かなど

##### (4) 子どもと過ごしている時の気持ち

#### 2 新しい家族がスタートしてからの生活

##### (1) 家事の協力、協力の仕方の自己評価

##### (2) 妻とのコミュニケーション

妻に対する気持ちや態度（精神的援助）  
夫婦で育児について話し合いなどするか

<sup>1)</sup> 日本総合愛育研究所

<sup>2)</sup> 総合母子保健センター愛育病院

### III 結果と考察

集計対象数などは表1に示す。父親の子どもへの関わりや関心等の調査項目の内容に1年間の間に変化があるかどうか、出産時の立会いの経験別に検討。なお、文中の表記は次のようにした

- \* 出生1カ月時の調査-1M時
- \* 出生6カ月時の調査-6M時
- \* 出生1カ年時の調査-1Y時

#### 1 子どもの関わり

##### (1) 子どもとの関わり

###### ① 子どもの遊び相手をしているか(表2-1,2-2)

両群ともにあやしたり・遊んでいる割合は子どもの月数に伴い漸次多くなってきている。両群ともに「よく遊んでいる」割合が子どもの成長とともに増加。しかし、「どちらかというと遊んでいない」父親は、両群ともにその割合が1Y時で増加の傾向を示しており、6カM時で「どちらかというと遊んでいる」と回答した父親が「している」か「しない」方に2極に分化する。

1Y時の遊びの内容は、立会い群の父親の方が体を動かしながらの遊びが有意に多く54%。

###### ② 子どもに話しかけているか(表3)

1M時と6M時の比較では両群ともに「よく話しかけている」父親の割合が有意に増加したが、1Y時では6M時の状態とほぼ同傾向で特に増加していない。

##### (2) 子どもの世話

###### ① 子どもの世話をしているか(表4-1)

1年を通してみると、両群とも全体としては世話をしているが、立会い群-90%・非立会い群-74%で立会い群の方がその割合が多い傾向がある。だが、「している」割合が次第に減少し、両群ともに「どちらかというとしている」に移行している。

1Y時の世話の内容は、入浴・おむつ替え・衣服の着替え・散歩などで、立会い群の方が有意にそれらの世話をしている割合が多い。特におむつ替えや食事の世話など日常の基本的な世話を立会い群の父親はしている。

###### ② 具合の悪い時などの世話(表5)

1年を通してみると、立会い群では「何とかしてやりたいと思世話する」割合が増加し、「分からないので世話をしない」割合が減少。非立会い群でも「世話」をする割合が増加し、「分からないから世話をしない」割合も一時有意に減少したが1Y時にはまた増加傾向。

##### (3) 子どもに関する心配

###### ① 子供のことが絶えず心配か(表6)

1年を通してみると、両群ともに6M時で「心配・どちらかという心配になる」割合が少なくなってきたが次第に増加傾向を示すV型。6M時には「心配にならない」割合が1M時に比較し有意に増加したものの1Y時には有意に減少。

###### ② 順調な発育かどうか心配(表7)

1カ年を通してみると、立会い群は「心配にならない」割合は逆V型で、1カ年を過ぎたころにはまた減少し心配になる割合が増加傾向。非立会い群では6M時と1Y時は同傾向である。

###### ③ 子どものことで気掛かりなこと(新-6M,1Y)

6M時と1Y時とは同傾向である。しかし、立会い群の方がやや気掛かりのある割合が多い。

気掛かりなことは<心臓のope、眼振、脱臼など>身体的なことが少数例で、多くは<自己主張が強い、かんしゃくを起こす><友達と遊ばない><食が細い、食べ過ぎ><大きく育つか><アトピーにならないか><指しゃぶり、夜泣き>などである。

##### (4) 子どもと過ごしている時の気持ち(愛着)

###### ① 子どもの相手をしたり・世話をしたりするのが楽しいか(表8)

1カ年を通して見ると、立会い群では「楽しい」という父親の割合が79~76%、非立会い群では67~61%で有意な変化はみられない。

###### ② 子どもと過ごしている時の気持ち(表9)

各項目を5段階評価に各項目の平均値を表に示した。立会い群は各項目で肯定的得点が次第に上昇。しかし、「イライラする」「犠牲になっている感じ」「煩わしい」「疲れを感じる」「負担にかじる」などの項目では、やや肯定的平均得点が1Y時には減少している。

## 2 新しい家族がスタートしてからの生活

### (1) 家事の協力

#### ① 家事の協力(表10)

1カ年を通じてみると、立会い群では協力を[している]割合が次第に減少し、[どちらかというとしている]割合が増加している。また、6M時には協力を十分にしていない割合が増加して30%になったが1Y時には減少。

#### ② 家事などの協力についての自己評価(表11)

立会い群では[協力したいができなく残念]が6M時に有意に増加し25%から44%だった。だが、1Y時には24%に減少し協力している人の割合が増加。非立会い群は全体的には大きな変化がなく、協力できなく残念が1Y時に増加し、協力していない割合が多い。

### (2) 妻とのコミュニケーション

#### ① 子どもの様子について妻と話しあうか

両群ともに話し合っている割合が次第に増加。

#### ② 妻が赤ちゃんのことで心配・不安な時に相談にのっているか

両群ともに[相談にのっている]割合が増加。

#### ③ 育児の方針等について話しあうか(新-6M、1Y)

両群ともに話しあっている割合は同傾向。

#### ④ 育児の考え方や育児の仕方が妻と意見が違うことがあるか(新-6M、1Y)

両群ともに話しあっている割合は同傾向。育児の考えなどの違いは、<夫婦のしつけの方針が違う-厳格にあるいは自由にしたい><具体的なしつけ方が違う-トイレットトレーニングなど><夫婦の基本的な生活習慣が違う><将来の教育-受験など>と多岐に渡っている。

## IV まとめ

### (1) 子どもとの関わり-遊ぶ・話しかけ

両群ともに[遊ぶ・話しかけ]などは、子どもの成長に従い増加の傾向。[日常の世話]も両群ともにしている。

しかし、両群の間では遊びの内容や・世話の内容・泣きやまない時などの世話をする際の気持ちなどに違いがみられる。立会い群の方が動きのある遊びを多くしており、また子どもの排泄・食事・

着替え・入浴など基本的な生活の世話もしている。

### (2) 子どもと関わっている時の気持ち

1M時では、肯定的項目において両群に有意差はなく高い得点であった。しかし、父親が子どもに[不安になる、犠牲になっている、煩わしい]と感じる否定的項目においては、立会い群の得点がありに低い。

6M時では[不安]の項目が同じく有意に低い。また[楽しい、エネルギーを感じる]という肯定的項目が有意に立会い群の得点の方が高い。

1Y時でも子どもに対する否定的気持ちの項目に有意差はないが、否定的な気持ちは立会い群の方が低い。また、[一緒にいたい][守ってやりたい]という肯定的項目では有意に立会い群の方が得点が高い。

このように立会い群の父親に、保護的・養育的な気持ちが高まっていることは、子どもとの遊びや世話など関わりあいが多いことが要因となっているのではないだろうか。

### (3) 子どもに関する心配など

子どもが順調に発育しているかどうか・気掛かりがあるかという項目でも、立会い群の方が非立会い群よりも心配などの割合が多い。これも子どもとの関わりがあるので関心が高くなり心配にもなるのであろう。

### (4) まとめ

両群を比較検討すると、立会い群では子どもとの遊び世話に関わる割合が多く、その関わりあいも子どもとの身体的ふれあいと動きのあるものが多い。また、子どもに対する気持ちも肯定的である。日常の世話や関わりによる疲労感などもあるが、その否定的な気持ちは子どもに投影されていないように考えられる。

非立会い群の父親も子どもの成長に伴いあやしたり遊ぶ割合が増えている。だが、子どもと関わっている時の気持ちなどには、1年間を通じての変化はみられない。また、発育のことなどに関する心配も多くはない結果がえられた。

以上のことから、父親の子どもへの気持ちなどがポジティブなものになっていくのは、子どもへの積極的な働きかけ・関わりあいによるものではないだろうか。

1歳前後から子どもたちは歩き始め、子どもたちの行動範囲は拡大され、母親からの心身の分離の練習が始まる。安定し心地よい母子関係も距離が近すぎると、密着による緊張関係をはらみ始める時期である。

この時期の父親（母親以外の世界の代表という意味）の関わりのもつ意味は、子どもが母から離れて生活する経験によって、母からの〈距離〉を取ることで世界を拡大して行くことを促進させ学ぶ機会が与えられることである。日常の世話にしても、母親と違う世話の仕方を通して〈母親とは違う経験〉を学ぶ。母親との共生関係から〈臍緒〉の切断に向けての練習に立会い・促進する働きが父親の役割にある。

母親の関わりより父親の関わりの方が活発で攻撃的で刺激的で、より身体的活動性のある遊戯的な関わりであることが多いということは知られている。そしてこのような関わりを体験する子ども（12カ月頃からは、歓喜と興奮と楽しみなどを体験し、快の情緒を体験する。この体験は子ども

の情動を刺激し、身体的感覚を楽しませ身体自己感覚を培ない発達に影響をもたらす。父親の子どもの世話や関わりあいは、前述したように子どもに〈母以外の世界〉を経験させることでもあるが、父親の家事の協力も含めて、母親に心身のゆとりをもたらすことに影響を与え、ひいては母親の子どもへの関わりを安定したものになる。母子関係の安定と母子分離、子どもの適切で自発的な社会化への環境作りの基盤となる。

参考文献

- 1) Call, J. D., Galenson, E., Tyson, R. L., (by ed.) :Frontiers of Infant Psychiatry, 1983, Basic Books, Inc. Publishers, New York.  
小此木啓吾監訳：乳幼児精神医学, 1988, 岩崎学術出版.
- 2) Emde, R. N., : Reflections mothering and on reexperiencing the early relationship experience. Infant Mental Health Journal 9 (1), 4-9, 1988.
- 3) 小此木啓吾他：周産期の臨床と父親の役割, 周産期医学, 18 (1), 115-119, 1988.
- 4) D. B. リン（今泉信人他訳）：父親—その役割と子どもの発達, 1986, 北大路書房

(表1) 集計の対象

回答の内訳	立会い群	非立会い群	計
出生1カ月時	76例	151例	227例
出生6カ月時	48	83	131
出生1カ年時	37	61	98

(表2-1) あやしったり・遊ぶ

%表示	立会い群			非立会い群		
	1M	6M	1Y	1M	6M	1Y
よくしている	50.0	60.4	70.3	40.4	47.0	62.8
どちらかという と している	32.9	33.3	10.8	37.1	44.6	4.9
どちらかという と していない	10.5	6.3	18.9	12.6	8.4	32.8
していない	1.3	-	-	-	-	-
N. A	5.3	-	-	9.9	-	-

(表2-2) 1カ年時-父母はどんな遊びをしているか

遊びの内容 %表示	立会い群		非立会い群	
	父親	母親	父親	母親
体を動かす遊び(室内・屋外) ボール、ダンス、泳ぎ、高い高い お馬さんごっこ	54.1* <sup>1</sup>	66.7* <sup>2</sup>	21.3* <sup>1</sup>	47.2* <sup>2</sup>
公園での遊び(屋外) 散歩、砂、滑り台、ブランコ	37.8	52.4	26.2	50.0
ごっこ遊び等(室内) ママごと、電話、ぬいぐるみ、 積み木	27.0	47.0	18.0	51.4
絵本の読み聞かせ・歌	18.9	61.9	21.3	58.3

注) \*<sup>1</sup> 立会い群と非立会い群の父親- $\chi^2$  P<0.01  
\*<sup>2</sup> 立会い群と非立会い群の母親- $\chi^2$  P<0.05

(表4-1) 子どもの日常の世話

%表示	立会い群			非立会い群		
	1M	6M	1Y	1M	6M	1Y
よくしている	47.4	43.8	35.1	31.8	31.3	23.0
どちらかという としている	34.2	41.7	54.1	33.8	47.0	50.8
どちらかという としていない	9.2	6.3	10.8	19.2	16.9	26.2
していない	3.9	8.3	-	5.3	4.8	-
N. A	5.3	-	-	9.9	-	-

(表5) 具合が悪い時や泣きやまない時の世話

%表示	立会い群			非立会い群		
	1M	6M	1Y	1M	6M	1Y
世話をする	10.5	66.7	73.0	31.8	57.8	55.7
妻が大変なので 世話をする	27.6	31.3	18.9	33.8	33.7	26.2
わからないので世 話をしない	35.5* <sup>1</sup>	2.1* <sup>1</sup>	5.4	19.2* <sup>2</sup>	8.4* <sup>2</sup>	16.4
関わりたくないの で世話をしない	21.1	-	-	5.3	-	1.6
N. A	5.3	-	2.7	9.9	-	-

注) \*<sup>1</sup> 立会い群の1カ月時と6カ月時- $\chi^2$  P<0.01  
\*<sup>2</sup> 非立会い群の1カ月時と6カ月時- $\chi^2$  P<0.01

(表3) 話しかける

%表示	立会い群			非立会い群		
	1M	6M	1Y	1M	6M	1Y
よくしている	59.2* <sup>1</sup>	83.3* <sup>1</sup>	83.8	46.4* <sup>2</sup>	69.9* <sup>2</sup>	72.1
どちらかという としている	0.3	12.5	16.2	34.4	25.3	24.6
どちらかという としていない	3.9	4.2	-	9.3	3.6	3.3
していない	0.1	-	-	-	-	-
N. A	5.3	-	-	9.9	1.2	-

注) \*<sup>1</sup> 立会い群の1カ月時と6カ月時- $\chi^2$  P<0.05  
\*<sup>2</sup> 非立会い群の1カ月時と6カ月時- $\chi^2$  P<0.05

(表4-2) 1カ年時-父親はどのような世話をしているか

世話の内容	%表示	立会い群	非立会い群
一緒に入浴、入浴の手伝い	* <sup>1</sup> 83.8	83.8	62.3
おむつを替える	* <sup>1</sup> 78.4	78.4	52.5
食事を食べさせる	64.9	64.9	49.2
散歩に連れて行く	* <sup>1</sup> 64.9	64.9	42.6
衣服を着替えさせる	* <sup>1</sup> 62.2	62.2	37.7
むづかった時の世話	35.1	35.1	31.1
寝かしつける	32.4	32.4	29.5

注) \*<sup>1</sup> 立会い群と非立会い群間で- $\chi^2$  P<0.05

(表6) 子どものことが飽えず心配か  
(1カ月時-くしゃみ等ちょっとしたことが心配)

%表示	立会い群			非立会い群		
	1M	6M	1Y	1M	6M	1Y
心配になる	31.6	10.4	37.8	24.5	19.3	42.6
どちらかという 心配になる	31.6	35.4	40.5	38.4	19.3	39.3
どちらかという 心配にならない	23.7	20.8	16.2	22.5	42.2	16.4
心配にならない	7.9* <sup>1</sup>	33.3* <sup>1</sup>	5.4* <sup>1</sup>	4.6* <sup>2</sup>	19.3* <sup>2</sup>	1.6* <sup>2</sup>
N. A	5.3	-	-	9.9	-	-

注) \*<sup>1</sup> 立会い群- $\chi^2$  P<0.01  
\*<sup>2</sup> 非立会い群- $\chi^2$  P<0.01

(表7) 順調な発育かどうか心配か

%表示	立会い群			非立会い群		
	1M	6M	1Y	1M	6M	1Y
心配になる	36.8	22.9	32.4	52.3	34.9	41.0
どちらかという 心配になる	36.8	43.8	51.4	27.2	38.6	29.5
どちらかという 心配にならない	11.8	22.9	8.1	7.9* <sup>1</sup>	24.1* <sup>1</sup>	29.5* <sup>1</sup>
心配にならない	9.2	10.4* <sup>2</sup>	8.1	2.0	2.4* <sup>2</sup>	-
N. A	5.3	-	-	10.6	-	-

注) \*<sup>1</sup> 非立会い群- $\chi^2$  P<0.01\*<sup>2</sup> 6カ月時の立会い群と非立会い群間で- $\chi^2$  P<0.05

(表8) 子どもの相手をしたり・世話をするのが楽しい

%表示	立会い群			非立会い群		
	1M	6M	1Y	1M	6M	1Y
楽しい	78.9	77.1	75.7	66.9	60.2	60.7
どちらかという 楽しい	15.8	22.9	21.6	19.9	33.7	32.8
どちらかという 楽しくない	-	-	-	3.3	4.8	4.9
楽しくない	-	-	2.7	-	1.2	-
N. A	5.3	-	-	9.9	-	1.6

注) \*<sup>1</sup> 非立会い群- $\chi^2$  P<0.01\*<sup>2</sup> 6カ月時の立会い群と非立会い群間で- $\chi^2$  P<0.05

(表9) 赤ちゃんとお過ごしている時の気持ち

	立会い群			非立会い群		
	1M-初産	6M-初経	1Y-初経	1M-初産	6M-初経	1Y-初経
いとおしい	1.7	1.75	1.85	1.7	1.87	1.70
不安になる	* <sup>1</sup> 1.3	* <sup>2</sup> 1.54	1.47	* <sup>1</sup> 0.8	* <sup>2</sup> 1.06	1.13
イライラする	1.4	1.42	1.22	1.3	1.22	1.05
一緒にいたい	1.6	1.58	* <sup>4</sup> 1.72	1.4	1.49	* <sup>4</sup> 1.40
自信がない	1.4	1.63	1.60	1.3	1.49	1.36
気持ちがなごむ	1.5	1.67	1.61	1.5	1.56	1.44
機嫌になっている感じ	* <sup>1</sup> 1.7	1.43	1.47	* <sup>1</sup> 1.3	1.41	1.20
楽しい	2.0	* <sup>3</sup> 1.81	1.84	1.6	* <sup>3</sup> 1.66	1.76
可愛い	1.9	1.88	1.83	1.8	1.91	1.63
煩わしい	* <sup>1</sup> 1.6	1.27	1.31	* <sup>1</sup> 1.3	1.34	1.26
守ってやりたい	1.8	1.83	* <sup>5</sup> 1.92	1.6	1.66	* <sup>5</sup> 1.50
疲れを感じる	0.7	0.63	0.56	0.6	0.71	0.67
喜びを感じる	1.7	1.78	1.81	1.6	1.63	1.63
負担に感じる	1.5	1.35	1.31	1.3	1.34	1.42
エネルギーを感じる	1.6	* <sup>2</sup> 1.79	1.75	1.3	* <sup>2</sup> 1.48	1.62
あとには引けない感じ	0.4	0.15	0.24	0.5	0.23	0.44

注) 5段階評価得点 (+2,+1,0,-1,-2)

注) 否定的項目の得点は、高得点に従い肯定的反応として換算

注) \*<sup>1</sup> 1M時の立会い群と非立会い群間で  
T検定危険率5% (片側) 有意注) \*<sup>2</sup> 6M時の立会い群と非立会い群間で  
T検定危険率5% (両側) 有意\*<sup>3</sup> 6M時の立会い群と非立会い群間で  
T検定危険率5% (片側) 有意\*<sup>4</sup> 1Y時の立会い群と非立会い群間で  
T検定危険率5% (両側) 有意\*<sup>5</sup> 1Y時の立会い群と非立会い群間で  
T検定危険率1% (両側) 有意

(表10) 家事などの協力

%表示	立会い群			非立会い群		
	1M	6M	1Y	1M	6M	1Y
している	38.2	31.3	24.3* <sup>1</sup>	25.2	21.7	16.4* <sup>1</sup>
どちらかという している	32.9	35.4	45.9* <sup>1</sup>	30.5	24.1	27.9* <sup>1</sup>
どちらかという していない	15.8	31.3	18.9	23.2* <sup>2</sup>	39.8* <sup>2</sup>	39.3
していない	6.6	2.1* <sup>3</sup>	8.1	9.9	14.5* <sup>3</sup>	16.4
N. A	6.6	-	2.7	11.3	-	-

注) \*<sup>1</sup> 1Y時の立会い群と非立会い群間で- $\chi^2$  P<0.05  
(当然の事・努力している人を合計し両群を比較)\*<sup>2</sup> 非立会い群の1カ月時と6カ月時- $\chi^2$  P<0.05\*<sup>3</sup> 6カ月時の立会い群と非立会い群間で- $\chi$  P<0.05

(表11) 家事などの協力についての自己評価

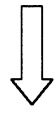
%表示	立会い群			非立会い群		
	1M	6M	1Y	1M	6M	1Y
当然のこと	36.8	25.0	29.7	23.8	28.9	19.7
努力している	27.6	25.0	32.4	19.9	15.7	23.0
協力ができなく残念	25.0* <sup>1</sup>	43.8* <sup>1</sup>	24.3	30.5	38.6	42.6
仕方なく やっている	3.9	4.2	5.4	4.0	8.4	6.6
その他	-	2.1	2.7	8.6	6.0	6.6
N. A	6.6	-	5.4	13.2	2.4	1.6

注) \*<sup>1</sup> 立会い群の1カ月時と6カ月時- $\chi^2$  P<0.05



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 要旨

目的:伝統的養育システムや養育環境が急変していく現代にあって、子どもを出産し新しい家族を形成していく時に、父親はどのような役割をとっていくのかを調査し検討。調査内容と方法:子どもの出生後1年間の父親の子どもとの関わり(愛着行動-あやす、抱く、話しかける)、子どもと一緒にいる時の気持ち(子どもへの肯定的感情)、妻とのコミュニケーション等。子どもの出生1カ月時、6カ月時、1カ年時の計3回継続して同一の調査対象者に郵送調査。対象は、東京-A病院で出産をした産婦の夫227人。結果:対象全体の1カ年時の傾向は、子どもとの関わり・子どもの世話などをよくしている。子どもへの肯定的感情も高い。立会い分娩の経験別に検討すると、立会い分娩群は対照群に比べ子どもとの遊びや世話をよくしており、動きのある遊びが多い。また、子どもへの肯定的感情得点も高く、子どもに対する関心が全体的に高い傾向がある。妻とのコミュニケーションもよくとっている。